

平成24年度 第3回花見川区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日時 平成24年12月6日(木) 午後2時00分～午後4時15分
場所 花見川保健福祉センター3階大会議室
出席委員数 18名
欠席委員数 9名
事務局 11名

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題 (1) 花見川区地域福祉計画の推進状況について
(2) 各委員からの活動状況の報告について
(3) その他
- 4 閉会

【2】議事要旨

委員の過半数の出席により会議成立の報告と配付資料の確認を行い、開会した。

議題(1) 花見川区地域福祉計画の進捗状況について

1) 地区別の取り組み状況について

資料1「取り組み項目地区別一覧表(平成24年11月末日時点)」をもとに、高齢障害支援課塚原係長より修正点を報告。新たに活動情報の追加はなかった。

<質疑> なし

議題(2) 各委員からの活動状況の報告について

前回の意見を踏まえ、分科会を作る前に地域ごとに地区部会、自治会、NPO・施設・公募の委員から一人ずつ活動発表いただくこととした。資料2に基づき、3人の委員から発表があった。

発表に先立ち、原田委員長より趣旨説明と、地区部会、自治会以外の委員には地域との関わりを意識して発表いただきたい旨の依頼があった。

事例1 検見川地区部会の主な活動事例について(資料2-1) 発表者: 大山委員

- ・検見川地区はスローガン「安心と安全で心豊かなまちづくり」に基づき、活動している。具体的な活動は資料のとおり。

<質疑>

齋藤委員 : 地域生活への支援体制の構築の中の安心カードの配付についてだが、対象者はどうしているか。高齢者だけなのか。私共も今後拡大しようと考えている。

大山委員 : 健康状態については社協では把握できないので、現在のところ民生委員が把握した高齢者のみを対象として配付し、冷蔵庫に保管している。

鈴木(勝)委員 : サロンは千葉市の地域支え合い事業の継続ということか。

大山委員 : サロンは初めての経験で、絆づくりが必要と考えている。小学校2年生から90歳代の方まで一回あたり30人くらい来ている。始まったばかりなので、話の内容は自由。これから把握検証していきたい。

吉松委員：冷蔵庫までたどり着かないケースがある。管理者のところに緊急連絡先などの情報を預けておけないか。民生委員さんもよほど問題のある方でない限り、連絡先等は知らない。

大山委員：町会内で12～13戸くらいずつをまとめているが、自治会でも引継ぎが難しい。社協で今後も工夫していきたい。

安澤委員：畑町東部自治会では救急隊が来た時のために行っている。情報が漏れるので自治会には提出しない方法で、家族の情報もみんな入っている。

町田委員：ふれあい食事サービスについて、花見川地区でも町会ごとに行っているが、参加者が減っている。多い町会では何件くらいか。

大山委員：地区部会全体で一回あたり43食をボランティアが作り、民生委員が担当の地区の対象者へ配食している。

原田委員長：要援護者台帳も民生委員が作っているのか。民生委員だけに負荷がかからないか。ボランティアと町会が代わりに行うことができないか。

大山委員：何十年もこの形で行っているが町会も忙しく関わるのはかなり難しい。

原田委員長：全体としてどの程度計画が進んでいるか

大山委員：検見川の街は学校からも協力的だという言葉をいただいている。災害の事業も街ぐるみで行う予定である。

事例2

・任意団体①「ちば元気づくり友の会」②「脳トレ美浜会・稲毛会」の活動報告と③今後の取り組みについて（資料2-2）
発表者：蔵谷委員

- ①元気高齢者の“こころ”と“からだ”と“あたま”の元気づくりで三位一体の介護・認知症予防作戦をキャッチフレーズに、地域を限らず市内横断的な活動の実践について報告。（詳細は資料参照）
- ②脳の健康教室終了後の参加者の要望により楽しい居場所作りを目的とする脳トレ教室のサポーターとしての活動報告
- ③傾聴塾の開催、在宅傾聴、市民後見人育成、NPO組織化への取り組み等の展望について

<質 疑>

吉松委員：稲毛の会に利用者が参加している。今後も続けて欲しい。

山田委員：からだ、あたまの方はわかったが、傾聴や裁判ウォッチングがこころの豊かさを養うこととなる意味をもう少し詳しく教えて欲しい。

蔵谷委員：傾聴は聞いてもらう人だけでなく、喜ぶ姿をみると、やる人の心も力づけられる。こころの元気づくりで何をやるかは非常に難しい。裁判ウォッチングは傍聴すると人の心の痛みがわかる。特に女性の方が関心を強く示す傾向にある。主に千葉地裁の刑事事件を傍聴している。

大山委員：脳トレ教室でいう「居場所」とは何を意味しているのか。どこを目指しているのか。

蔵谷委員：その場所が一層楽しい場所となるよう、みんなで進めていこうという活動である。音楽等を交えたレクを行うことで楽しい場所となるので、皆が関心を持つ活動をするという意味である。楽しい居場所になりつつある。

鈴木(勝)委員：「ちば元気づくり友の会」がこころの元気づくり、美浜と稲毛の脳トレ教室があたまの部分を行うという組織構成なのか。別組織なのか。参加者が書いて

あるが、スタッフは何人いて、ある程度有給でやっているのか、ボランティアなのか。

蔵谷委員：「ちば元気づくり友の会」は私がやっているもの、脳トレ教室は千葉市の教室から引き続いているもので、それぞれ独立している団体である。基本的にはボランティアなので無給、余裕があれば交通費のみ支給する程度。

人数は「ちば元気づくり友の会」が述べ100人を超える。脳トレ会はおおよそ30人が学習、6人くらいがサポーターという形で35、6人で開催している。希望者が増えてきているので、思案中である。稲毛会ではサポーターの中にケアマネジャーなどがいるため、要介護状態の方も受け入れている。

鈴木(勝)委員：「ちば元気づくり友の会」があたまの元気づくり実践活動をやられているようだが、どういうものか。

蔵谷委員：これは最も力を入れていて、定例会（勉強会）とレクリエーションというテーマで行っている。勉強会は様々な講師の方を招いて、毎月1回勉強会を中心に言い、レクリエーションは老い支度・健康づくりをテーマとして川柳や音楽、ゲームなどを行っている。この2つが相まって脳の元気づくりができると考えている。

鈴木(幸)委員：シニアと言われているが、脳トレ会の平均年齢は60歳代以上か。自治会や社協とは連携していないのか。

蔵谷委員：対象は50歳代としているが実際は60歳代の方が参加している。自治会から話をして欲しいと依頼が来る場合は対応しているが、活動として関わっていくかは今後の検討事項である。

原田委員長：レストランからの寄付があったようだが、このようなことはよくあるのか。どのように運営しているのか。活動費が必要では。

蔵谷委員：寄付などはめったに無いことである。基本的にボランティアだが、講師謝礼や会場費がかかる。財源がないので、バス旅行の際の自己負担経費を浮いた分を活用したりしている。寄付活動がもっと盛んになるとよいと思う。

原田委員長：美浜区の区づくり事業に応募されているがどういう活動か。花見川区では申請しないのか。各区で区づくりの助成を行っている。

蔵谷委員：公開講座を3回言い、著名な先生を呼んでいる。美浜区では活動を評価していただいて助成金をいただいた。美浜区で行っている脳トレ教室で情報を得たため、サポーターを中心に美浜区で申請した。

山田委員：千葉県健康生きがいくづくりアドバイザー協議会とはどういうものか。

蔵谷委員：健康づくりの啓蒙活動を行う団体であり、そこに属して活動していたが、実践活動が必要と思い、下部組織として「ちば元気づくり友の会」をつくった。

事例3 数字で見るファミリーサポートセンターについて（資料2-3）

発表者：町田委員

・千葉市から受託事業であるファミリーサポートセンターの業務説明と現状について資料をもとに説明。

<質疑>

加藤委員：お子さんを預かる際のリスクについて、保険は市でかかっているのか。

町田委員：登録はしたが2件しか預かったことはない。保険には入っていても100%賄いきれないこともある。事故が起こったこともあり、調停になったが、それほ

ど大きな話にはなっていないとのこと。

原田委員長：充足率が高まる見通しはあるのか。

町田委員：今年9月の時点の花見川区のデータでは依頼会員は減っている。提供会員は少し増え、両方会員の変動はあまりない。定期的に交流会を開いて情報交換をしているが、総数では4月から比べ依頼会員が大きく300人程減少している。依頼すると結構費用がかかることがわかる。利用者の負担も大きいと考えられる。

原田委員長：依頼料金を上げれば提供会員が増えるということか。

町田委員：その金額を払っても利用したいという方がいれば、ということではないか。とにかく事故だけには気をつけて活動している。

議題（3）その他

社協花見川区事務所長より、歳末たすけあい募金運動における戸別募金の取扱について資料をもとに説明があった。

また、原田委員長より、鷹の台自治会として緑区地域福祉計画推進協議会からの依頼を受け、見守りネットワーク検討委員会主催の講演会（12月8日開催）にて事例発表を行う旨、情報提供があった。

<質 疑>

吉松委員：今までの一般募金から出してはいけないのか。

原田委員長：歳末は一般募金とは別に改めて集めるべきである。戸別募金をやるならば集めるためのリストを回覧できるような様式（別紙参照）を資材として配付して欲しい。後で自治会役員が集めるなどすればよい。

齋藤委員：社協としては助かるが自治会には年末にいろいろな募金の依頼がある。必ずしも歳末でなくてもよいのではないか。自治会からは11月上旬に文書が来ても間に合わないから今年は協力できないと言うだろう。年中活動しているのだからどうにかならないか。

原田委員長：よっぽどてきぱきとやらないと一般募金とごちゃごちゃになってしまう。

中垣委員：連協会長は話があったらすぐ社協の活動費になることも含めて各自治会に説明しなければいけない。

最後に原田委員長から閉会挨拶があり、午後4時15分花見川区地域福祉計画推進協議会は閉会した。